

Rマッピと図面を重ねる前に確認すること

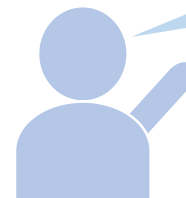
① 所有している図面全ての縮尺(寸法)を合わせること

全ての縮尺を統一し、寸法を合わせて重ねられる状態にすること

② 調査地の位置を特定する際は、
必ず調査地にとって不利側となるように合わせること

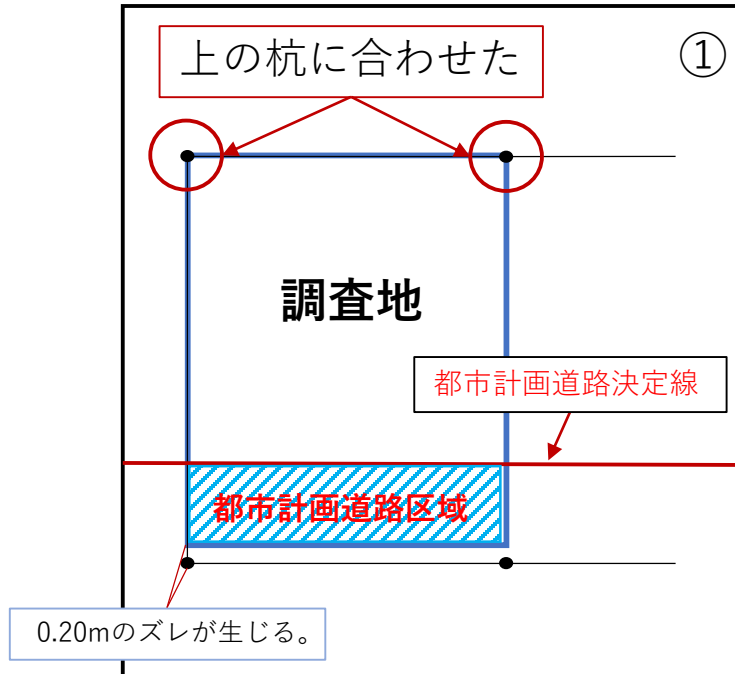
※境界点とは、市が道路境界として定めている杭等の位置を示しているものです。境界調査図で市杭・市鋸・民杭・図上点等様々な種類の標で境界を定めていますが、現地には杭等が存在しない場合があります。

吹き出しの中も重要だから
ちゃんと読んでね！

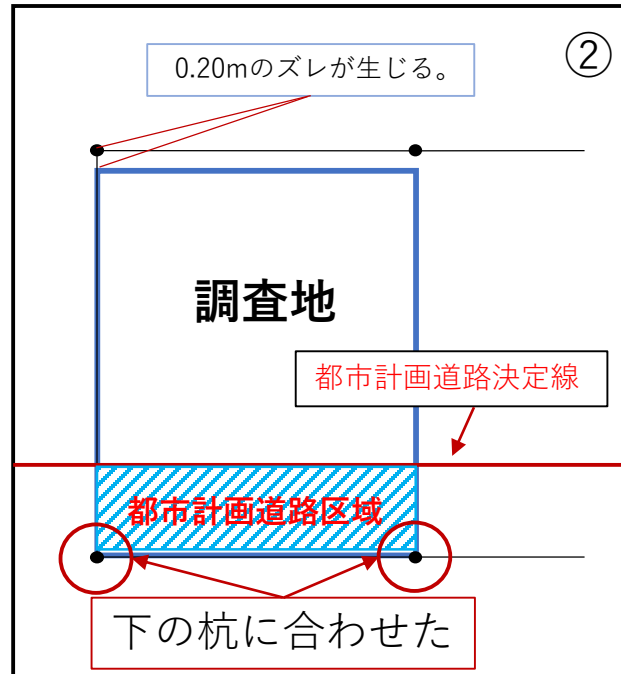


不利側についての考え方

調査地の位置を特定する際に、道路境界線と調査地図面の杭・外形が完全に一致しない場合は、**調査地に対して厳しい制限の割合が大きくなるように（不利側）**合わせます。不利側に合わせることで、都市計画道路の抵触や制限超過などの問題が発生するリスクが低くなります。

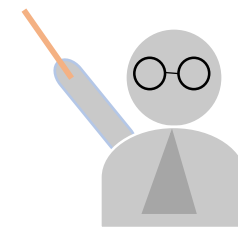


①上の杭で合わせた場合



②下の杭で合わせた場合

左図のように、測量精度の誤差により、測量成果とRマップ（区域線図）の境界点とズレが生じる場合があります。その場合、**調査地に対して厳しい制限の割合が大きくなるように（不利側）**合わせます。左図の場合、**都市計画道路が調査地に対して抵触する割合が大きい方が不利側**と考えられるため、②の合わせ方をします。



※都市計画道路と同様に用途界と防火界も不利側に考えます。

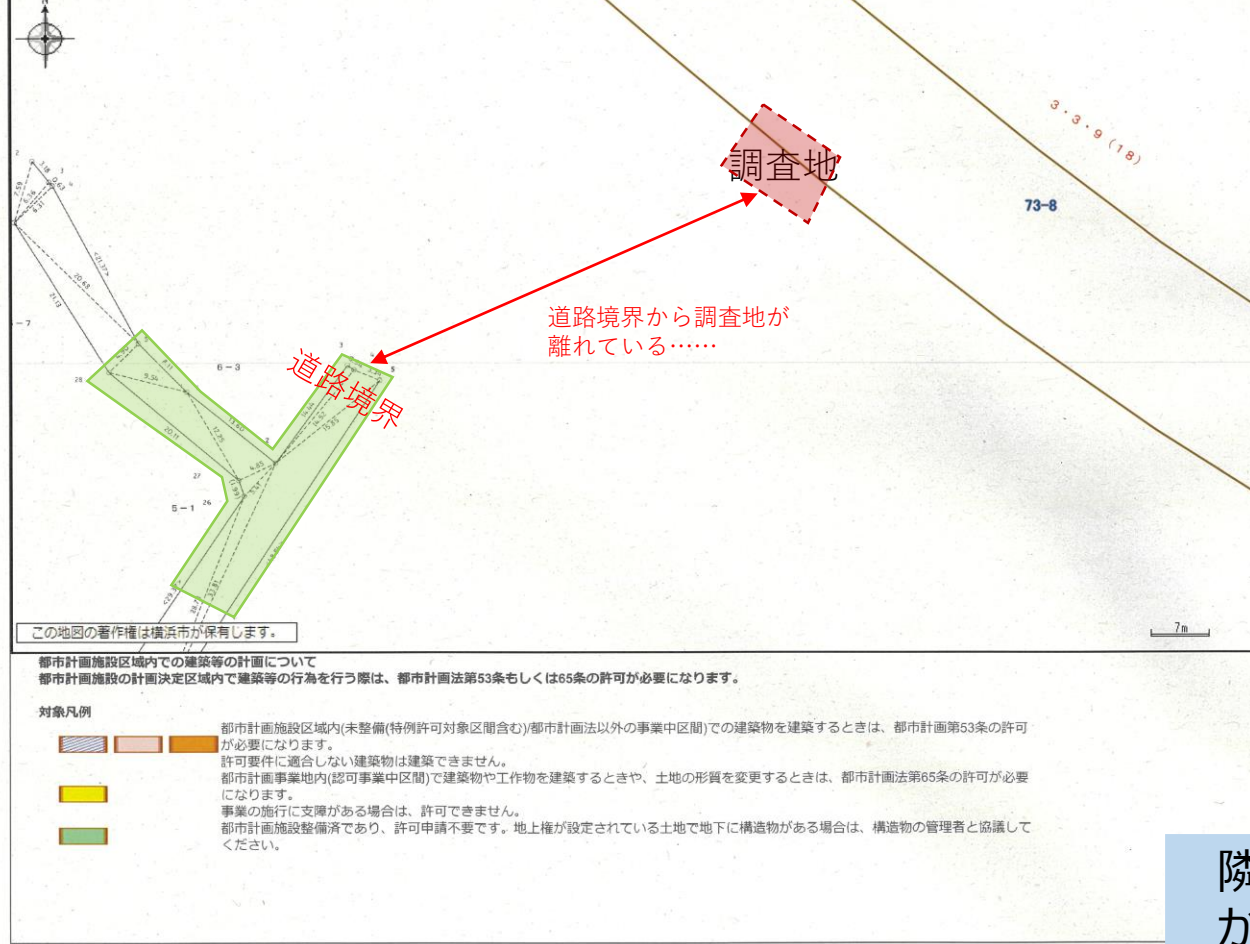
用途界：厳しい用途制限の割合が大きくなる方が不利側です。

防火界：厳しい防火制限の割合が大きくなる方が不利側です。（防火地域＞準防火地域＞防火指定なし）

調査地がRマッパーの区域線図から離れている場合 ~公図編~

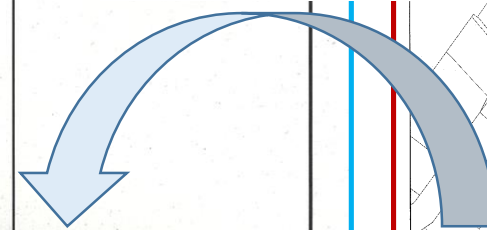
①Rマッパー（区域線図）と公図の道路外形を一致させて重ねる。

(Rマッパー)区域線図・補正図・別図・補正別図



下記の表示は、旗の根本の部分における内容です。

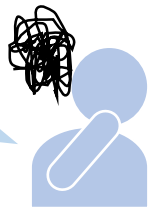
Rマッパーに重ねる



公図 (1/500)

Rマッパー (区域線図)

隣地図面、道路図面を使用しても位置特定ができない・・・
調査地周辺の公図は**1/500**だから、公図を利用して位置特定できないかな？



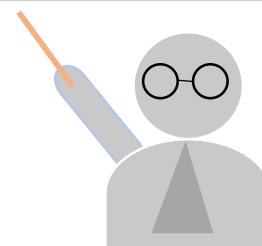
(Rマップ)区域線図・補正図・別図・補正別図



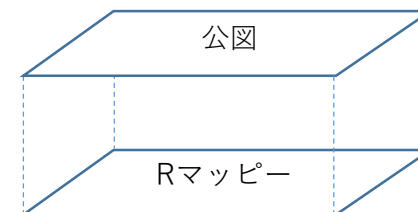
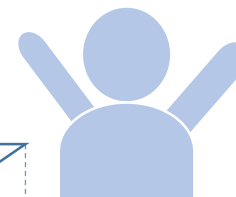
Rマップと
公図(1/500)の道路形状が一致

Rマップ（区域線図） + 公図（1/500）

Rマップの境界点と公図の道路
外形が一致する箇所で合わせます。
これを行うことで、周辺の敷地形
状が分かり、境界点との位置関係
が分かります。

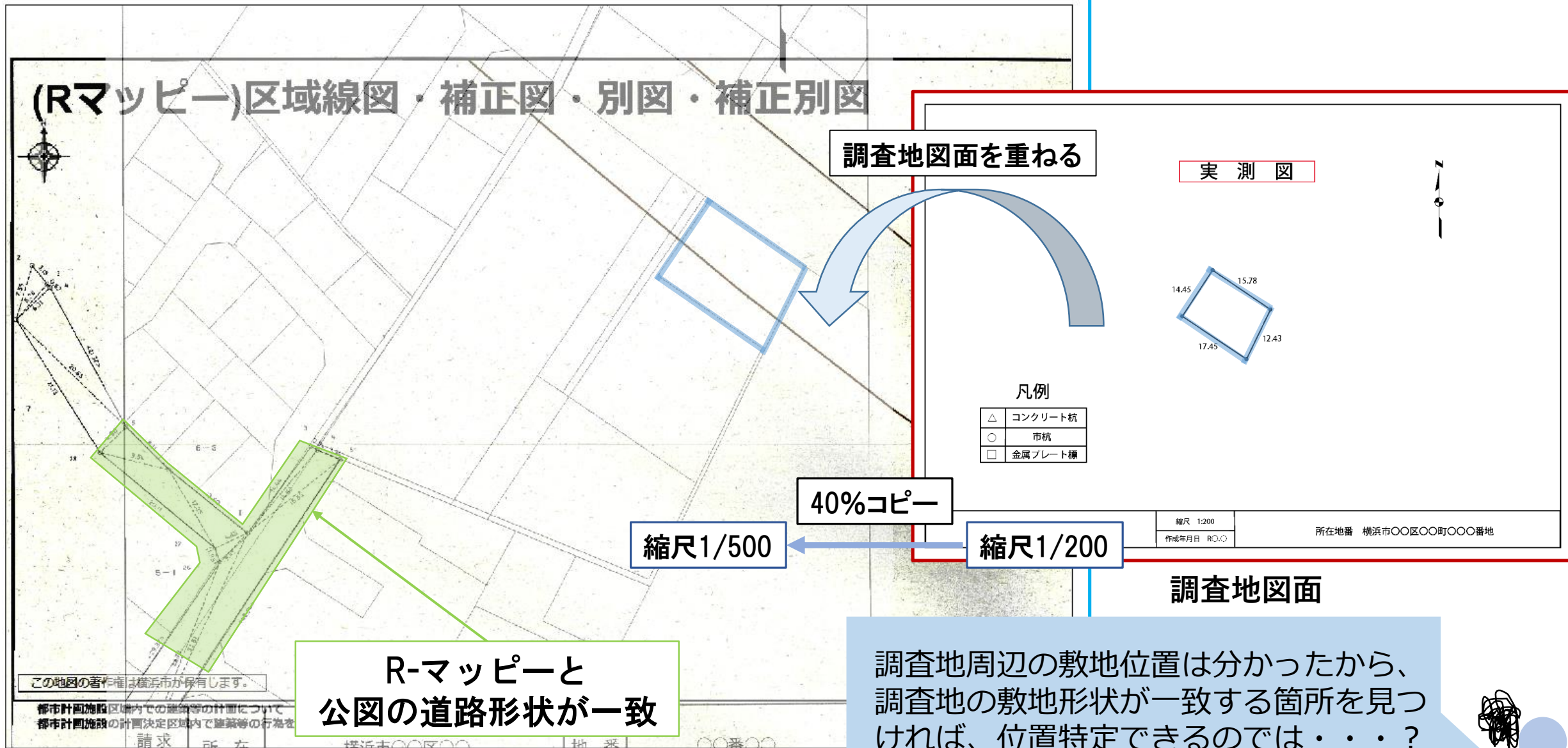


この位置特定は、**公図が縮尺
1/500でなければ使えない**から、
縮尺を確認することから始めない
とだね！

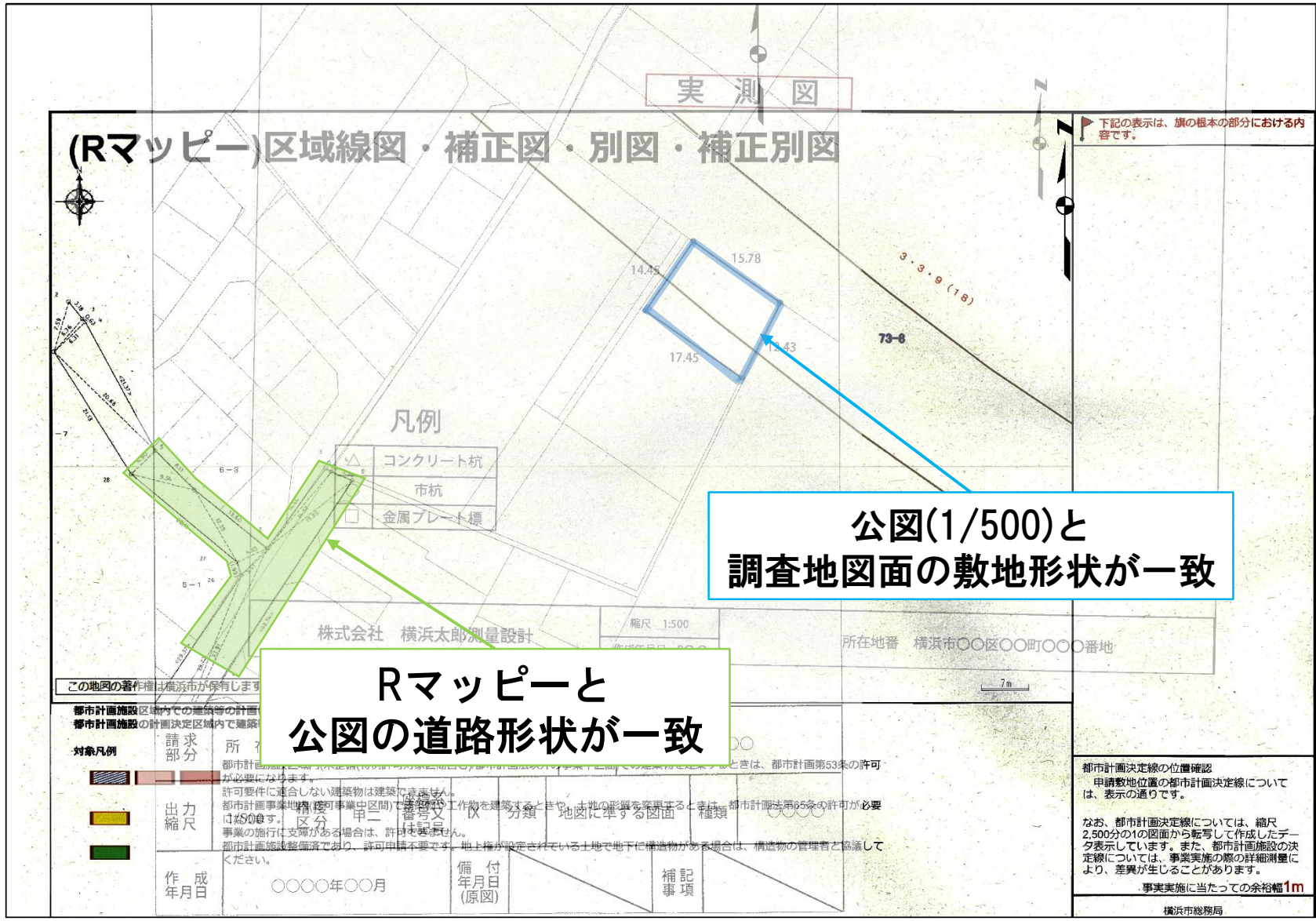


重ね図イメージ

②調査地図面と①で重ねた図面の敷地形状を一致させて重ねる。



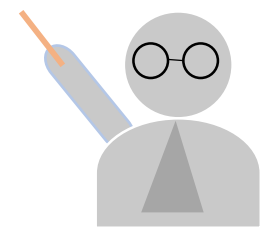
R-マッピ- (区域線図) + 公図 (1/500)



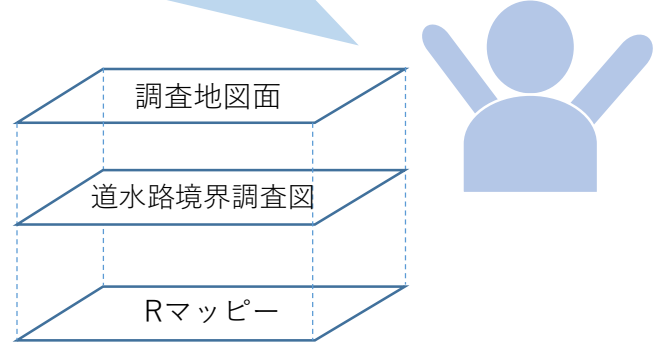
公図(1/500)と
調査地図面の敷地形状が一致

Rマッピ-と
公図の道路形状が一致

調査地図面と公図の敷地形状が一致する箇所で合わせることで、位置特定ができます。公図の敷地形状と重ねた時に完全に一致しなかった場合は、**調査地にとって不利側**に合わせます。



自分にとって不利側に合わせることで、今後精度誤差によるズレが生じても**抵触や制限超過などの問題が発生する確率が低くなる**ね！



Rマッピ- (区域線図) + 公図 (1/500) + 調査地図面

重ね図イメージ